

平成30年度 吉野川学識者会議
議事録

1. 日時：平成31年2月8日（金） 11：00 ～ 17：30
2. 場所：[事前説明] 徳島河川国道事務所 2階 第一会議室
[現地調査] 管内各事業箇所
3. 議事録（委員からの主な意見）

（中野委員長）

- 築堤や旧吉野川の液状化対策の実施にあたっては、コスト意識を持つことが重要。今後、掘削事業が見込まれるのであれば、発生土の有効利用を検討頂きたい。
- 河道掘削の発生土については、発生する土砂を有効的に活用するやり方を検討すべき。例えば PFI のような仕組みが使えないか。官だけでは限界があるため、民間企業の協力を得て公共事業に取り組めるような仕組みを今後検討していく必要がある。
- ハザードマップは想定最大規模・計画規模で作成されており、流量規模毎の浸水リスクを住民は知ることができない。
例えば、池田水位観測所の流量規模毎に下流の浸水リスクを住民にもしっかり周知し、避難を促していくことが重要である。
- マイタイムラインなどを活用し、住民へ自分達の地域の危険性を理解させていくことが重要である。

（武藤委員）

- 河道の安定化を図るための河道整正については、二極化の改善にもつながり、非常に良い取り組み。しかし、局所的な対策だけでは解決しないため、総合的な土砂動態の把握に今後発展させていくことを期待している。
- 加茂第二地区は、整備効果を早期に発現させるため、暫定的に HWL の高さで堤防を整備した後に、段階的に計画堤防高さまで整備する手順であることは理解した。一方で、一般住民からすると、暫定的な高さであっても堤防が繋がると完成したように見え、安全になったと勘違いされる可能性が高い。工事説明の際などの機会をとらえて、洪水の時はまず避難が重要ということをしかりと住民に周知していくことが重要である。

(田村(典)委員)

- 子供達が川と接する場所を工夫して整備できれば、川と触れあうことにより、子供達が自然に川の危険性についても学び、ひいては防災意識の向上にもつながると期待される。
- 生態系ネットワークの取り組みについて、地域のワーキンググループとともに住民の意見を聞きながら進めているところは興味深く、すばらしい取り組みである。

(池田委員)

- 河川整備に伴い河道が変化し、水質に変化があることを十分に理解しておくことが重要。現在、吉野川の水質は良い状態であるが、今後も同じ状態が続く保証はなく、どのように変化するか、しっかり監視することが重要である。

(木下委員)

- 上流の無堤部は今後堤防事業を進めていくことになると思うが、現在、無堤部には多くの希少種が存在している可能性が十分考えられる。工事に着手する前には環境調査を実施し、これまでのミチゲーション成功事例を参考として、改修工事を進めて頂きたい。

(中村委員)

- 三庄地区かわまちづくり箇所の竹林保全に期待している。竹林が観光地として成功している事例も参考にしたい。

(木下委員)

- 生態系ネットワークについて、生態系の頂点のコウノトリに視点があたっているが、ハス田は非常に優れた多様な生態系である。そこには、希少種が沢山存在する。しかし、重要であるのにまったく話題に上ってこない。コウノトリが来たその大きな理由の一つに、ハス田の生態系が非常に優れているからだと考えている。コウノトリを守るためにも植物も含めた生態系を守っていくことを、生態系ネットワークを通じてお願いしたい。